

目標達成のため毎年重点目標を設定し、教職員による目標評価を行うとともに、学生による授業・学校生活、実習、国家試験対策等のアンケート結果をもとにして自己評価を行っている。以下 2026 年度の自己評価による学校関係者委員会の結果を報告する。

1. 教職員による目標評価について

1) 「入学生の確保」では 近隣校への訪問や進路相談会、8 月にオープンキャンパスで学校説明会を開催し当校の PR を行った。しかし総受験者数は減少傾向で、少子化、受験者の大学志向や県内の医療系大学・医療系専門学校の新設などもあり定員を満たすことはできていない。今後も受験者及び入学生確保は困難な状況が続くことが推測されるが、高校生に向けたこれらの活動を継続するとともに、小中学生に向けたイベントの開催、社会人も意識し、ホームページ、教員ブログ、インスタグラムの発信を行い学生の確保に努めたい。学習環境は電子教科書の導入に伴い、学生用 PC 新規購入・フリーWi-Fi の整備や、演習用シミュレーター活用など向上している。2) 「学生の教育充実と国家試験の支援」学生アンケートの結果を次の国家試験対策に活用し、在校生への意識を高めることに役立てている。2025 年度の国家試験合格率は 92%である。過去 5 年平均 98%と比べ厳しい結果と受け止め対策を講じる。

2. 学生による授業・学校生活、実習、国家試験対策アンケート結果について

1) 授業・学校生活アンケート結果 5 段階評価 (3.5 未満を否定群とする) 学生自身の学習への取り組みは平均 3.8、教員の授業の進め方については平均 4.1、学校生活については平均 4.0 と高評価で否定群はなかった。国家試験に向け低学年より個別指導を行っており、学習への取り組み、国家試験への関心は 1 年次より高く、3 年次にはさらに高まる傾向がある。授業については、視覚教材や参加型学習が学生の記憶に残り理解も深まっている。教員は授業研究を行い学生の学びにつながるよう工夫していく。学校生活については、センシティブな学生が増える中、級友の存在や教員の助言が助けとなっている。またスクールカウンセリングが不安の軽減につながっている。2) 実習アンケート結果、学習環境や人間関係などが学生の学びに大きく影響している。今後もグループ調整、リフレクションの工夫、個別的な支援、臨床との連携で実習環境の調整を継続していく。教育目標の到達評価では、多くの学生が高い到達度を述べるとともに実習での自己の成長を感じることができた。3) 国家試験対策アンケート結果、早い段階から計画的に取り組む必要性を述べており低学年から弱点克服に向けた個別指導を継続し学習を促すことが必要である。1 年次では入学前学習システムの活用で学習時間の増加を認めている。4) その他、昨年度受けた県定期指導調査でも問題の指摘はく、目標評価の報告から委員より学校の教育活動、学校運営について適切に行われていると評価された。委員からは、学校の現状と課題についての理解と今後の教育活動への支援の承諾を頂いた。2026 年度からは運営評価を毎年行い、低評価となっている研究と研修を教員ラダーに組み込み、教員の質向上を評価していくこととする。